



kia
KOCHI INTERNATIONAL
ASSOCIATION

公益社団法人 高知県国際交流協会

2023 世界の笑顔集まれ

WINDOW

国際ふれあい広場2022



2023
Spring
No.78

- 当協会実施事業の紹介
 - 国際ふれあい広場2022
 - 高知県韓国全羅南道学生交流プログラム・やさしい日本語
 - 親子で学ぶ国際理解講座・多文化共生出前講座
 - 多文化共生講座ワールドツアー in 高知
 - 日本語ボランティア養成講座・交流会、外国語でおしゃべりセッション
 - 日本語教室(地域活動)
- JICA高知デスク着任挨拶
- INFORMATION BOARD
 - JICAボランティアによる活動報告

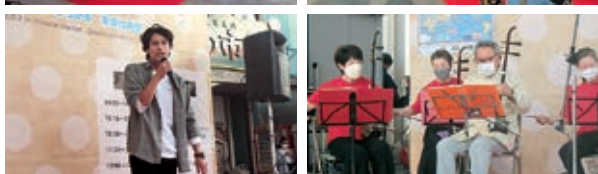
国際ふれあい広場2022開催しました

国際ふれあい広場inこうち開催事業

2022年10月16日(日)「国際ふれあい広場2022」

会場をひろめ市場よさこい広場・大橋通商店街(北側)とし、3年ぶりに屋外での開催となりました。

今年は「高知で ふれあい ひろがる 多文化共生」をテーマとし、県内の国際交流・協力に関する活動をしている18団体の①見る・聴く、②知る(国際交流・協力団体等)、③食べる(飲食・雑貨販売)、④体験する(異文化交流・体験)を通して、高知で多文化を感じてもらえるようにしました。出展ブースは、フェアトレードの雑貨・民芸品・飲食の販売、本のしおり作りや外国にルーツのある刺繍の塗り絵、かるた体験のワークショップ、各団体による活動紹介のパネル展示等を行いました。ステージ上では、国際交流員のトークショー、外国にルーツのある歌や踊りの披露、高知の文化であるよさこい鳴子踊り披露や来場者参加型のワークショップを開催しました。高知の国際交流や国際協力を知るきっかけになったのではないのでしょうか。来年度も屋外で開催ができるよう、みなさまが楽しめる内容にできるよう、準備を進めていきたいと思っております。みなさま、来年も国際ふれあい広場でお会いしましょう!



【国際ふれあい広場2022】

- 日時: 2022年10月16日(日) 10:00 - 16:00
- 会場: ひろめ市場よさこい広場・大橋通商店街(北側)
- 出展団体: (公財)高知県国際交流協会、ココフォーレ(高知県外国人生活相談センター)、JICA四国センター、高知県(文化国際課)、在高知インドネシア人会、NPO法人Global Education Lab高知、とさし日本語サロン、学校法人龍馬学園、オイスカ高知県推進協議会、オーテピア高知図書館、高知SGG善意通訳クラブ、特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク、高知県フラ協会、NPO高知県日中友好協会、高知県日中友好中国帰国者の会、よさこい国際交流隊、高知大学国際協力団体すきっぷ、高知家の国際交流員(高知県・高知市)
- 主催: 公益財団法人高知県国際交流協会
- 共催: 独立行政法人国際協力機構JICA四国センター
- 後援: 高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会、NHK高知放送局、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテレビ、(株)エフエム高知、高知ケーブルテレビ(株)、高知新聞社、朝日新聞高知総局、読売新聞高知支局、毎日新聞高知支局、日本経済新聞高知支局

高知県韓国全羅南道学生交流プログラムにて、和順高校の学生をお迎えしました！



高知県と友好交流協定を締結している韓国全羅南道と高知県の高校生を隔年で交互に派遣する交流事業が、平成28年にスタートしています。

本年度は新型コロナウイルス等の影響から、約4年ぶりに対面交流が実施できました。12月17日から22日まで全羅南道の和順高校より学生5名と教員1名、全羅南道庁より2名の8名が来高し、県内の視察を行いました。視察では、交流のきっかけとなった人物である田内千鶴子氏の



記念碑の訪問をはじめ、高知城、牧野植物園、よさこい情報交流館やいの町紙の博物館等、高知県の文化や歴史に触れました。また、当プログラムの目的である学生交流



では、昨年度からオンライン交流を実施している高知県立窪川高校を訪れました。窪川駅で迎えてくれた窪川高校の学生と対面した和順高校の学生は、はじめは恥ずかしそうにし

ながらも、窪川高校の学生に対し、「オンラインで会いましたね」と嬉しそうに日本語を使い話しかけたりしていました。両校の学生は、一緒に窪川の町を歩いたり、授業体験をする中で、日々の学校生活や授業の違いに驚きや疑問を感じ、日本語や韓国語、英語を駆使し、質問し合ったり感想を共有していました。とても楽しい時間を過ごした様子で、別れ際には最後まで手を振って、別れを惜しんでいました。22日に県内での行程を終えた8名は大阪での視察を終え、12月23日に帰国しました。



本年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、夏開催を延期しての冬開催となりました。たくさんの県内の方にご協力をいただき、体調管理、感染対策を講じながら実施した当プログラムが、将来、両県道の架け橋となる人材育成に繋がることを願っています。



使ってみよう！
やさしい
日本語④

Point 5 オノマトペ (擬態語「めちゃめちゃ」「ふらふら」等や擬音語「ゴロゴロ」等) は使わない。

例：靴がピカピカです → 靴が きれいです
今日はバタバタしています → 今日は 忙しいです

Point 6 カタカナ外来語・ローマ字はなるべく使わない。発音や意味が原語と異なる場合があります。

例：デマ → うその 話
ライフライン → 電気・ガス・水道など

デマはドイツ語の単語Demagogyを省略した言葉で、日本人以外には伝わりにくいです。ライフラインは、英語では「命綱」を意味するので、外国人には誤解されやすい言葉です。バス・ガス・ガラス・テレビ・ラジオなど、外来語以外の表現が難しいものは使うことができます。

親子で学ぶ国際理解講座

ベトナム&シンガポール編

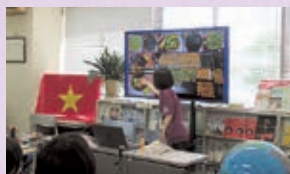


開催日：
令和4年7月29日(親子6組15名)
8月3日(親子6組12名)

小学生親子対象の「親子で学ぶ国際理解講座」を高知県国際交流協会ラウンジにて開催しました。



ベトナムの文化について学ぶ



ベトナムの食べ物



シンガポールの講師のお話を聞いています！

2年ぶりの開催となった今回は「世界の季節のイベント」をテーマに子どものおもちゃや季節の飾りを工作しました。7月29日は講師にベトナム出身の高知県国際交流員アンさんをお迎えし「中秋節」の子どものおもちゃの星型ランタンを作りました。8月3日はシンガポール出身の高知県国際交流員エミさんからシンガポールの「旧正月」について学び、シンガポールのお年玉袋を利用した飾りをつくりました。



親子で力を合わせて作ります。

工程が多く、いつもは使わない道具や少し複雑な手順もありましたが、保護者の方や学生ボランティアの手も借りつつ、それぞれが自分だけのおもちゃや飾りを作ることができました。

保護者の方からは、世界の文化も学べるし、作品もできるので夏休みの宿題にぴったり、親子で楽しめてよかったと好評でした。小学生からは

- 「工作が楽しかった」
 - 「日本のお祭りとは違うと分かった」
 - 「自分でたくさん工夫できた」
 - 「シンガポールは暑いと知った」
 - 「いつか行ってみたい」
 - 「シンガポールが高知県より小さくてびっくりした」
- などたくさんの感想をいただきました。

異文化を知り、その国のものを親子一緒に作ることをとても楽しんでくださったようです。



ベトナムランタン完成しました！



シンガポールの飾りもできました！

多文化共生出前講座 in 香南市中央公民館

7/20

参加者：25名

講師：浦野ダナさん

テーマ：高知に来てびっくり！ヨーロッパから見た同じところ、ちがうところ

ロシアやチェコなど東欧に長く暮らした経験のある講師から、ヨーロッパの文化や習慣、食生活について学びました。

参加者からは、

- 楽しかった、モスクワに行ってみたい、クリスマスの料理が魚とポテトと聞き驚いた。
- 自然のことや高知との生活習慣の違いなど勉強になった。

- 講師が日本語がお上手で驚いた。
- 高知がよいところだと改めて分かった。
- 電車内でのマナーなどの違いがよく分かった。
- 外国にはスリが多いなど、日本は安全なのだと分かった。
- 音楽を聞かせてもらえてよかった。
- ヨーロッパを歩いた気分になった。
- チェコのビールを飲んでみたい。などの感想をいただきました。



多文化共生出前講座 in 香南市立野市東小学校

11/12

香南市立野市東小学校で一年生41名を対象に多文化出前講座を開催し、講師として高知県国際交流員のイランさん(韓国出身)、オウシンウさん(中国出身)が参加しました。各国の生活や食べ物、遊びなどについてお話したあと、日本でもおなじみの童謡「きらきら星」の韓国語版と中国語版と一緒に歌いました。児童からは、韓国

にも漢字があったと初めて知った、中国や韓国にもきらきら星があったとびっくりした、などの感想がありました。言葉や文化の違いと、一方で同じものもあるということを楽しく学んだようでした。



場 所：高知県人権啓発センター
6Fホール
参加者：32名

多文化共生講座 ワールドツアー in 高知 12/25

JICA四国と共催で「ワールドツアー in 高知」と題し、多文化共生講座を開催しました。高知にいながら様々な国を体験しようという企画で、ブラジル、アルゼンチン、フィリピン、スリランカ、カンボジア、中国と、JICAの取り組み、高知県内の多文化共生について学ぶ8つのブースに分かれて、様々な国の文化についての発表を聞きました。各ブース15分ずつと短いながらも、国の文化や料理、講師の家族の話、遊びや工作、その国の言葉の練習など、盛沢山の内容でした。今回は、講師と英語で交流するブースも設け、参加

者と講師が英語で直接やり取りをする場面もありました。ブラジルのカポエイラを体験するコーナーもあり、高知で様々な国の文化に触れることのできる一日となりました。参加者の皆さんからは普段馴染みのない国の方とお話出来てよかった、参加者同士で話ができ楽しかった、色々な国のことが分かり楽しく勉強になった、将来のことなども考えながら聞くことができた、日本から出たことが無かったけど多文化に触れることができ良かった、またやってほしいなどの感想をいただきました。



全体



ブラジル



アルゼンチン



スリランカ



カンボジア



中国



JICA



KIA



カポエイラ実演



みんなでカポエイラ



フィリピン



高知県協力交流研修員としてフィリピン・ベンゲット州から3年ぶりに派遣された、レックス・キタヤンさんがフィリピンブースの講師として、フィリピン・ベンゲット州の文化などを紹介してくれました。

多文化共生出前講座 in 国立室戸青少年自然の家 12/3 ~ 12/4

国立室戸青少年自然の家にて小学3～4年生対象のイングリッシュキャンプが開催され、外国人講師を紹介・派遣しました。

工作やフィールドでのゲームなど、英語を使って楽しく交流しました。参加児童の皆さんからは、とても楽しかった、もっと英語を勉強したいと思った、友達がたくさんできてうれしかったなどの感想をいただきました。



多文化共生出前講座 in 香美市立宝町集会所 12/8

講師のアメリカ出身のユーバンクスさんとチュニジア出身のファテさんが、外国の文化・生活・習慣についてお話をしてくださいました。自国の生活文化のお話を聞いた後、質問形式により日本との違いや仕事・留学先に日本を選んだ理由などをお話し頂きました。参加者から



は、アメリカの文化を知っているようで、意外と知らない事があるのだと思った、チュニジアのファテさんが留学先として日本を選んだ理由がアニメだと知り、アニメによって日本の文化が受け入れられ、世界に良い印象を与えている事を嬉しく思えた、などの感想をいただきました。



スタートアップ講座 in 香南市・安芸市

日本語ボランティア養成講座(全4回コース)

事業名：高知県地域日本語教育推進事業（県受託事業）
地域日本語教室スタートアップ支援業務

令和4年度に香南市、安芸市で日本語教室を開設するにあたり、そこで活動する日本語ボランティアを養成するためのスタートアップ講座を開催しました。本講座は全4回コースで、第1回・2回は、香南市及び安芸市で合同かつオンラインで、第3回・4回は、各市を会場とし対面で開催しました。香南市は30名、安芸市は16名の受講がありました（*各市の定員は30名で募集）。

本講座では、主催である高知県（文化国際課）から高知県地域日本語教育推進事業や県内の在住外国人状況、各市からは地域住民が交流する場としての日本語教室開設への趣旨及び目的を共有しました。講師は、第1回から4回まで今井多衣子氏（南国市国際交流協会－会長）、第1回のみ東條美紀氏（南国市国際交流協会－理事）にご登壇

●香南市及び安芸市 第1回・2回合同オンライン(ZOOM)開催



●香南市開催 第3回・4回対面開催(会場は、のいちふれあいセンター)



●安芸市開催 第3回・4回対面開催(会場は、安芸市女性の家)



いただきました。第4回の後にはボランティア準備会を開催し、各市から教室開設についての目的や概要を説明し、ボランティア候補者との意見交換を行いました。

～本講座の内容～

- 第1回：日本語教室の概要、ボランティアの心得とやさしい日本語
- 第2回：外国語としての日本語
- 第3回：日本語の教え方①
- 第4回：日本語の教え方②、教室設置に向けたボランティア準備会



●こうなんにほんごサロン(香南市)事前交流会の様子
日 時：令和4年10月23日 日曜日 10:00-11:30
会 場：のいちふれあいセンター3階 第1学習室
参加者：全33名 内、外国人8名(ベトナム、アメリカ、オーストラリア等)

地域日本語教室の事前交流会

事業名：高知県地域日本語教育推進事業（県受託事業）
地域日本語教室スタートアップ支援業務

香南市が実施主体の「こうなんにほんごサロン」、安芸市が実施主体の「あきにほんごサロン」開設に向けた事前交流会が開催されました。本サロンで活動予定の日本語ボランティアと日本語学習者が、やさしい日本語を使いながら、自己紹介やジェスチャーゲーム、フルーツバスケット等を通して互いの交流を図りました。



●あきにほんごサロン(安芸市)事前交流会の様子
日 時：令和4年11月13日 日曜日 10:00-11:30
場 所：安芸市女性の家2階
参加者：全26名 内、外国人7名(ベトナム・インドネシア等)

外国語でおしゃべりセッション

(2022年11月～2023年2月開催)

外国語(英語・中国語・韓国語・スペイン語の4言語)で参加者同士のテーマやトピックに沿ったフリートークを通し、多文化共生への理解促進や、普段接点の少ない住民同士が交流する場の提供を目的としています。月2回程度で全8回開催(11月～2月)しました。本イベントは、語学力向上等の講座ではありませんので、語学に自信のない方、国際交流・協力に興味や関心のある方、どなたでも気軽にご参加いただけます。高知県・高知市の国際交流員、高知県受入の南米研修員も参加していますよ。ぜひ次の機会を活用してみてください。

※今後も引き続き開催予定です。スケジュール等の詳細は、当協会HPやFacebookをご覧ください。



スペイン語



英語



英語



中国語

当協会直営の日本語教室では、在住外国人のみなさんが日本語学習だけではなく、地域住民との交流や公共サービス等を学習する機会として“地域活動”を行っています。

今回は、対面とオンラインの日本語教室で実施しました。わたしたちが当たり前と感じていることが、学習者にとっては新しい体験や情報になることもあります。

地域活動を通して、学習者にとっては、普段あまり使わない・聞きなじみのない日本語を楽しく学ぶことができ、地域の方にとっては、学習者とのコミュニケーション手法「やさしい日本語」実践の場として、互いに学びや気づきがあること、また交流できる場の機会提供を目指しています。

12月

図書館利用学習会 (オンライン日本語教室)

オーテピア高知図書館(多文化担当サービス)にご協力いただき、公共サービスの学習として地域図書館の利用の仕方、本貸出方法等を教えていただきました。オンライン学習者の居住地近くの地域図書館の紹介もありました。本貸出やロッカー、自転車置き場、Wi-Fi利用等、多くのことが公共サービスとして“無料”でできることに驚いた様子でした。



12月

新聞ばっぐワークショップ (対面の日本語教室)

新聞ばっぐインストラクター(高知新聞社)のみなさんにご協力いただき、新聞ばっぐを作りました。本ワークショップを通して日本語教室でまだ勉強していない日本語も学ぶことができました。インストラクターのみなさんも、優しい気持ちと易しい日本語で教えてくれました。最後は自分の好きな字を書道で描き、日本文化も体験しました。インストラクターのみなさんから「意外な場面で良い反応があった。いろんな形のばっぐを作ることができるので、より楽しんでもらえるようこれからも工夫していきたい。」と感想いただきました。



JICA高知デスク 着任挨拶

はじめまして。2022年9月に高知県のJICA国際協力推進員に着任した和田安史(わだやすし)と申します。私は生まれも育ちも高知県で、JICA海外協力隊として「PCインストラクター」という職種で、2010年から2012年まで西アフリカにあるガーナ共和国に、2013年にカリブ海地域にあるセントルシアに派遣されていました。本来の要請内容である学校でのIT教員としての活動に加え、ガーナでは現地で開催されている「ガーナよさこい祭り」へ配属先の生徒たちと共に参加したり、セントルシアでは子どもたちによさこいワークショップを開催したりなど、現地の皆さんに高知の文化を紹介する活動も行っていました。

国際協力推進員は、「地域のJICA窓口」として、高知県の皆さまと世界とを繋げ、国際協力への最初の一步を踏み出すためのお手伝いを行っています。KIA内に私のデスクがありますので、「海外協力隊の体験談が聞いてみたい」「国際協力やSDGsについて学びたい」「学校で出前講座を行ってほしい」など、いつでもお気軽にご相談ください。





ドミニカ共和国・ザンビアでのJICAボランティア活動について

JICA海外協力隊2016年度1次隊・2019年度2次隊
瀬下 岳(小学校教育)

2020年3月に、2年の任期のはずが、新型コロナウイルスの影響で、わずか約3ヶ月間で緊急一時帰国し、そのまま待機状態にある瀬下 岳と申します。私は、一回目の協力隊は、ドミニカ共和国の教員養成校、ザンビアでは小学校に赴任し、いずれも算数・数学を教えておりました。

どんな活動をしていた？

ドミニカ共和国(以下、ドミ共)の教員養成校では、小学校教員を目指す20歳前後の学生や同僚教員に対し、教授力向上や、基礎的計算能力の向上に取り組みました。実情、教授力向上に重きを置くつもりでしたが、学生たちの四則計算(足し算・ひき算・かけ算・割り算)が、あまりにもおぼつかなかった為、特に『分数』の単元に絞り活動を進めて参りました。分数の計算方法が日本とドミ共で大きな違いがあり、その部分に面白さを感じた私は、広島大学大学院国際協力研究科に入学し、次は、ザンビアの『小数』の研究を進めて参りました。大学院を休学し、2年間のザンビアでの活動と研究と思っておりましたが、その矢先、コロナの影響で緊急帰国することになりましたが、帰国直前、なんとか得られた研究の調査結果をまとめ無事大学院を修了することが出来ました。



ドミ共での教授風景

なぜJICA海外協力隊に？

小学校5年時に、当時住んでいた千葉県八千代市とタイのバンコクが姉妹都市関係になり、作文を応募したところ親善大使に選ばれ、約30年前の約2週間の日程でバンコクを訪問しました。現在の



教員養成校でカプトを作った後の記念写真

バンコクは、東京に引けを取らない程の大都会ですが、約30年前は、発展途上国そのもので貧富の差が垣間見れました。その時感じた、物質的豊かではないけれど、『微笑みの国タイ』と言われるように、皆笑顔で幸せそうに暮らし、そして活力のような物を感じたバンコク。一方、日本では、仕事に疲れ切った大人たちが電車の中で眠りにふけている姿とは対照的に見えた。活気に満ち溢れ、物質的には豊かでないのに、なぜ皆幸せそうな笑顔を振りまいているのか、この疑問を確かめに、あれから約20数年後にJICA海外協力隊の1回目にチャレンジしました。



約100名を超える驚きの写真

現地で学んだことは？

『その一瞬一瞬を楽しむこと』です。ドミ共では、カリブ海地域のいわゆるラテンののり、ザンビアでも大らかで陽気な人が多く、いつも楽しそうでした。とかく日本では未来について年金や保険をしっかりとかけ、慎重に未来に向かっていくイメージがありますが、自分が経験した両国の方々は、未来のことよりも今この瞬間を全力で楽しむ姿にとっても影響を受けました。



ザンビアで課題の棒数え方式

この寄稿はドミ共とザンビアでの活動のほんの一部ではありますが、少しでも途上国の算数教育に関わる先生や学生たちを身近に感じていただけたら嬉しいです。最後までご覧くださりありがとうございます。ありがとうございました。



ザンビア児童と記念自撮り写真